

榛西小だより

教育目標
人権尊重の精神を基盤として、自ら学び、豊かな生活を創る、心身ともにたくましい子の育成

めざす児童像

- ・よく学びよく考える子
- ・自分も人も大切にしている子
- ・明るく健康でたくましい子

榛原西小学校だより 5月号 令和2年4月30日

児童の皆さんへ — 君も世界の一員だ —

新学期になっても、皆さんと会えない日が続き、寂しく思っています。そんな中でも、数少ないですが、皆さんと会えて元気な顔を見られた日には、先生方は大変うれしく、元気をもらっています。

今、世界中の人が力を合わせて新型コロナウイルスと戦っています。今はじつとがまんの時。お友達と会いたい、先生と会いたい、そんな気持ちをがまんしましょう。そして、皆さん一人一人が自分のできることをして、世界の人々といっしょに乗り越えていきましょう。

皆さんにできることはたくさんあります。どんなことができるか自分で考えてみましょう。

例えばこんなことができると思います。

まずは、「うつさない・うつらない」ということです。「あつまらない・ちがづかない・しめきらない」を守ってすごしましょう。手洗い、うがいをし、きちんと食べてしっかり眠りましょう。心の健康も大切です。ゲームや暗いニュースのスイッチを切って、家族でお話をし、笑い合しましょう。皆さんの笑顔は家族を元気にします。

また、おうちで自分のできる仕事をする 것도大切です。おとなの人もみんながんばっています。家族の一員としてできる仕事をして助け合しましょう。皆さんが学校で給食当番やそうじ当番をし

5月の行事予定

新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、5月31日まで臨時休業となります。

国の緊急事態宣言が出ている間は、木・金の課題受け渡しを続けます。

っかりとできることを先生は知っています。おうちでも、そうじや後片付け、ごはんのしたく、洗い物、洗たく干し、洗たく物たたみなど、できる仕事をおうちの人といっしょにしましょう。田や畑のあるおうちは、畑仕事を手伝いましょう。暮らしの中で身につけた体験は必ず学習にも生きてくるでしょう。そのように、皆さん一人一人が考えて、自分のできることをすることが、世界中の人たちとつながり、力を合わせて行動することになるんだと、そして励まし合いつながり合えば、必ずウイルスに勝つことができると信じて過ごしましょう。

西小クイズ

「雪蝨かくて百年山粧ふ」
榛原西小学校の中にある句碑です。さて校内のどこにあるでしょう。知っていますか？

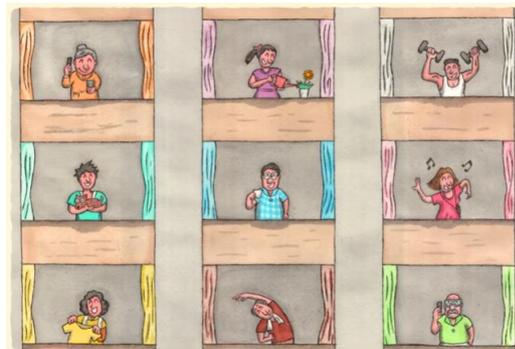


保護者の皆さまへ — お子様の心と体の健康を —

新年度が始まり、例年なら学校生活を通じて子どもたちと、また、家庭訪問や学級懇談会で保護者の皆さまと作っていくつながりが、この状態でしっかりと作っていけないもどかしさを職員一同感じています。

大変な時期ではありますが、保護者の皆さまには臨時休業中、お子様が心も体も健康で過ごせるようどうかよろしく願いいたします。

日本赤十字社が「ウイルスの次にやってくるもの」という動画をユーチューブで公開しています。社会全体に暗いニュースが流れ、ストレスが増え、ぎすぎすした言葉があふれているように思える今、一度立ち止まって、心の健康を維持していきましょう。励まし合い、団結の力で乗り越えていきましょう。



<https://youtu.be/rbNuikVDrN4>

「ウイルスの次にやってくるもの」で検索

古いアルバム発見

— 校長室で見つけた写真から思うこと —

校長室の書棚を整理していると、古いアルバムが出てきました。

この写真は、明治時代からの卒業写真をつづったアルバムの中にあつた明治44年度（1911年度）下井足小学校の卒業写真です。



木造の旧校舎は現在の農林会館の場所にあります。当時は羽織袴の和服で、大正から昭和へと時代が移り変わるとつれて詰襟やセーラー服がみられるようになるのも興味深いです。

こうした古い貴重な資料はまだまだ地域の中にも眠っているものと思われまふ。校区の自然と歴史、地理が織り成す風土の中で、人々が営む暮らしに紡がれてきた、なりわい、ならわし、言い伝え、祈りと祀り、神賑わいの芸能など、土地に刻まれた「もの」と「こと」の記憶を掘り起こし、地域が地域であるためのしるべとして保存蓄積する仕組みを作れないかなあと思いがふくらみます。

デジタル記録にして保存・公開すれば、学校の教材としても使いやすく、校区の皆さんが自分の地域を学ぶこともできるのではないのでしょうか。

宇陀の牛市

— 地域の先人の働きと人々のつながり —

榛原西小学校のそばにある宇陀市農林会館では年4回牛市が開かれています。4月20日は牛市の日。臨時休業中で授業がなかったため、先生方数名が牛市を見学してミニ研修をしました。

榛原は、伊那佐地区を中心に畜産が盛んで、良質の牛肉の産地でした。1886年（明治19年）に早くも精肉店とすき焼き専門店が開業し、1919年（大正8年）宇陀郡畜産組合設立、1923年（大正12年）榛原常設家畜市場開設により、「大和の宇陀牛」「榛原の牛市」は県外にまで広く知られるようになりました。

この流れをくむ宇陀家畜市場の牛市はさらに、うだアニマルパーク（奈良県畜産技術センター）やみつえ高原牧場、「大和牛」ブランドへとつながっています。

「大和牛」が奈良県のブランドとなるまでに地元の多くの人の働きがあったことや、一頭の牛の命が様々な人の手を経て様々な生かされていくことを通じて、社会の仕組みを学ぶ教材化ができればいいなあと考えています。

「家庭・地域と共にある学校」として、このような地域の「人」「もの」「こと」と学校をつないでいければと思います。



たくさんの人に支えられて

— こんな方々にもお世話になります —

本年度、それぞれ専門的な立場から学校を助けていただく皆さんを御紹介します。

役 割	お名前（敬称略）	役 割	お名前（敬称略）
ALT（アシスタント・ランゲージ・ティーチャー）	ジョー（ジュゼッペ）	スクールボランティア	八谷 未咲
初任者指導教員	堀山 弘行	スクールボランティア	今中 佑紀
初任者研修補充教員	坪井 純子	放課後学習支援員	栗生 紀子
ICT サポーター	岩竹 仁美	放課後学習支援員	（未 定）
スクールカウンセラー	谷 緑	地域コーディネーター	池田 孝志
家庭相談員	佐藤 葵	学校評議員	奥 定嗣
特別支援巡回指導員	藤熊 典子	学校評議員	大西 芳雄
生徒指導巡回指導員	片岡 孝典	学校評議員	脇山 美穂
スクールボランティア	柴田 英治		